

令和3年度 第1回静岡市中小企業・小規模企業応援会議 議事録

開催日時	令和3年12月14日（火） 14:00 ～ 16:00
開催場所	各委員の属する団体等の事務所等 ※ウェブ会議のため
出席委員 ※五十音順	青山達弘 座長、高橋節郎 委員、竹内佑騎 副座長、中野真吾 委員、仁科満寿雄 委員、堀田純友 委員、松下恵美子 委員、矢部田久幸 委員（8名）
欠席委員 ※五十音順	稲葉豊穂 委員、大谷裕紀 委員、佐藤由貴 委員、手塚光里 委員、深田浩介 委員、八木邦明 委員、山崎かおり 委員（7名）
静岡市出席者 （事務局）	金丸参与兼産業政策課長、松浦課長補佐兼企画係長、田中主査
<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開会に当たって、以下2点について確認を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ①委員の出欠席状況について <ul style="list-style-type: none"> ・委員の過半数が出席していることを報告。 ②議事録の作成について <ul style="list-style-type: none"> ・議事録を作成し、市ホームページで公開することを委員から了承を得た。 <p>2 青山座長 挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中小企業振興条例及び本会の趣旨の確認 ・前回会議までの振り返り <p>3 議事</p> <p>（1）今後の応援会議の進め方の検討・意思共有について</p> <p>【事務局】資料1及び参考①・②の資料を用いて説明</p> <p>【説明内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度の会議により、本会議で検討するテーマの方向性を定めた。 <p>→令和3年度～令和4年度にかけては、テーマの方向性に沿った具体的な事業検討を行ったらどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記事業検討のほか、市経済対策への意見や令和4年度に改定を予定している「静岡市産業振興プラン」に関して、中小企業者からの視点で意見聴取を行いたいかどうか。 ・規約第1条にある「中小企業・小規模企業及び民間団体等が主導して推進していく会議」とするため、会議運営に関し必要な事項（進め方の詳細、検討事項等）については、委員の意見を踏まえ、座長、副座長を中心に協議のうえ、事務局に指示し、進める形としたらどうか。 <p>→ いずれについても、委員の了解を得た。</p> <p>（2）国の施策共有と市経済対策等への意見聴取について</p> <p>【事務局】資料2及び参考資料を用いて説明</p> <p>【説明内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国の施策→市経済対策の説明→以下2点について、委員の意見を伺いたい。 ・中小企業を取り巻く状況について 	

- ・国の施策を踏まえたうえで、市に対して求めることは何か。

(3) 静岡市産業振興プランに関する意見聴取について

資料3を用いて、静岡市産業振興プランの概要説明→下記の点について、委員のご意見を伺いたい。

- ・産業振興プランの方向性について

② 質疑・意見交換等

【青山座長】

委員の方から最近の取組事例等をお聞きしたい。また、各議題に関わらず、ざっくばらんに意見等をお伺いしたい。

【竹内副座長】

私の業界では、副業・兼業の動きがある。新しい働き方・地元への回帰等を模索する事例が出てきている。

その他、アフターコロナに向けたデジタル化への取組みや旅館のリノベーション等も行われている。私は、コロナにより10年先の未来が今やってきたのだと理解している。ヒト・モノ・カネの本質は変わらないと思うが、新しい価値観にはついていかなければならない。

【中野委員】

元に戻るということではなく、新たな価値観・取組みを活かしていこうという意識は重要である。

【堀田委員】

私自身のことで言うと、7～8割在宅勤務となった。

【高橋委員】

新たな取組に際しては、デジタルリテラシーの向上・WEBマーケティングの方法の習得等が必要で、中小企業支援センターでもIT活用・BCP補助金の活用セミナー等を開催しているが、定期的なHP・SNS管理等、やることが多過ぎてマンパワーや資金が足りないという声をよくいただく。

【矢部田委員】

清水地区の状況でいうと、家賃が静岡地区と比較して低い分、何とかやっていけている感覚である。コロナ禍でも頑張っている事業者ほど、行政の補助金等の活用ができている印象がある。

【青山座長】

(松下委員に対して) 事例等について、お話しいただきたい。

【松下委員】

静岡県中小企業家同友会：12月例会の発表内容の紹介

- ・清水駅～エスパルスドリームプラザの遊歩道活用の検討
- ・葵区玉川地区のガイアフロー静岡蒸留所の事例視察
- ・清水区興津地区の果樹研究所の視察

この他、京都市では「中小企業」のことを「地域企業」と会議や条例名等あらゆるところで使用していることを紹介

【中野委員】

金融機関では、補助金の申請の補助を行っている。切り口は支援ではあるが、企業の中身を知り、課題解決を図っていくという点において、本質的には本業に入り込んでいくことに他ならないと考えており、積極的に継続したい。

行政の支援は多岐に亘っており、何をしたら良いか分からないという声も多い。施策検討の際には、一般の事業者にも分かりやすいものとしていただきたい。

【堀田委員】

労福協では、最近、市長あて要請を行ったところであるが、中小企業への支援強化についても触れている。各制度が利用されていない・あることも知らないのは問題である。

【松下委員】

気軽に相談できる・声を集められる場所が必要ということではないか。行政等の支援というと、どうしても構えてしまう。

【高橋委員】

中小企業支援センターには、色々なチラシ・案内が来るが、各相談者にどの支援制度があてはまるのか・活用可能性があるのかを判断するのは、なかなか難しいというのが本音である。

無料の窓口のみで対応しきるのは難しい。各制度の周知については、チラシを配布するだけではなく、支援者向けの説明会を行う等、伴奏型支援ができるようにしていただくと良いのではないか。

【仁科委員】

発信した情報をどのように活かしていくのか。平面的な案内に留まらず、時間軸や対象者を意識した立体的なものを検討しなければならない。また、各種計画においては結果検証を適宜行うことが重要である。

【竹内副座長】

「知らせる」ことの大変さの観点からいうと、事業者が接しているのは、行政機関や支援機関だけではない、「届けば良い」という観点も必要である。宿泊業でいうと、税理士・社労士・卸売業者等が想定される。各種施策の広報においては、事業者「日々接している人は誰か、どこから情報をもらっているか」等を尋ねてみるのも良いかもしれない。

【仁科委員】

今までペーパーだったものがオンラインにかなり置き換わっており、この大きな波についてこれない事業者は取り残されてしまう。

【中野委員】

事業者への伴奏型支援が重要である。例えば、様々な融資制度があるおかげで、資金の確保はできている事業者も多い。その間に本業を安定するように支援することが必要であるが、金融機関の実態としては、物理的な量が多すぎてこなしかけていない。

金融機関だけではなく、様々な人（上記の取引事業者等）を巻き込み・活用していく仕組み作りが望まれる。

【仁科委員】

産業振興の方向性としては、改革に取り組む中小企業・苦戦している中小企業、双方の事業者を取りこぼさない発想が求められる。個人的には苦戦している既存の企業に対してスポットを当ててもらいたい。また、各種補助金制度においては、苦戦している場面・回復の後押しをする場面等、局面に応じたものを用意する必要があると思う。

また、他県の事例であるが、公契約における中小企業への配慮等、行政等の業務の中でも支援となり得るものがあることを紹介しておく。

【松下委員】

どんな施策を行う・検討するに当たっても、なるべく多くの人の声を集める場を作ることが重要であると思う。

【竹内副座長】

規約上の正規メンバーに囚われず、適宜オブザーバーを加える等、多様性のある会議としていきたい。

【青山座長】

竹内副座長がおっしゃっていた、「10年先の未来が今きただけ」という視点は重要である。

【松下委員】

正規の15名が核となって、広げていけば良いと思う。個人的には、補助金等の支援だけでなく、人同士の繋がりを作りたい。

【青山座長】

いずれにせよ、現状のネガティブ分析だけではなく、ポジティブな取組みを検討していけたらと考えている。

4 次回開催日程

事務局より説明

- ・開催日が決定し次第、追って通知させてもらうことを報告した。

5 閉会

金丸参与兼産業政策課長より挨拶